

掛川城 静岡県掛川市掛川 1138-24

掛川城の北東に子角山（ねずみやま・別名天王山）という山があるが、ここに掛川城の前身の掛川古城があり、三代将軍徳川家光を祀る龍華院大猷院靈屋(日光に比べれば圧倒的に小さいが雰囲気は同じに見える。なぜこの地にあるのか不明)があるほか、その東側に土塁と大堀切が残る。その後、遠江における今川氏の勢力拡大に伴い、掛川古城では手狭となり、永正9年(1512)から10年頃に現在の地に掛川城が築かれた。永禄3年、桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に討たれると、永禄11年(1568)義元の子氏真は甲斐の武田氏に駿河を追われ掛川城に立てこもった。翌年、徳川家康は掛川城を攻め、長期に渡る攻防の末、和睦により開城させた。家康領有後、重臣石川家成が入城し、武田氏侵攻に対する防御の拠点となった。天正18年(1590)、全国平定を達成した豊臣秀吉は徳川家康を関東へ移すと、家康の旧領地に秀吉配下の大名を配置し掛川城には山内一豊が入りました。一豊は城の拡張や城下の整備を行うとともに掛川城に初めて天守閣を創る。(パンフ)



龍華院大猷院靈屋(立入禁止)



大堀切を上から見ると高さが判りにくい

同地に最初の城があった説明版



移築された大手門



大手門説明版



現掛川城天守と太鼓櫓



現在工事中のため立入禁止



十露盤池



掛川城御殿

